

スポーツウェア向け生地などを製造する丸井織物（石川県中能登町）が、畑違いのインターネット関連事業を強化している。中心となっている宮本徹社長の長男でネット事業部長を務める智行さんは起業の経験を生かし、新事業を生み出している。

繊維会社でネットに挑む

丸井織物 ネット事業部長 宮本智行さん

無料対話アプリ「LINE」のスタンパ製作受託、E」の物代行サービス。2014年11月に設立したネット事業部がサービスの企画を考案し、ウェブサイトの作成やシステムの構築を外注する形で生み出した事業は4つある。「人から

京都市の大学を卒業した後、は渡米し経営学修士号（MBA）を取得した。帰国後は専門学校でIT（情報技術）を学び、ホームページ制作の企業を設立。飲食店経営などにも進出し、複数企業の経営者となった。

だが、8つの会社を立ち上げるうちに「起業家であり出すのが大好き」と語る智行さんの経歴は異色だ。

「石川県には寄りつかなかった」というように、中と痛感。他人に委ねた会社



が急成長したこともあったという。「会社員としての常識も含めちゃんと学ぶべきだ」と、12年に丸井織物に入社した。

平日は工場で生産現場の作業をこなし、週末は東京に戻って自らがオーナーを務める会社の業務をこなす二重生活が続いた。そうした中でも入社半年で難関とされる繊維関連の資格を取得。初受験で合格した例は同社で初めてだったこともあり「社内に見る目が変わった」という。その後「アナログな繊維業界だからこそITを使って何かやりたい」と考え提案したアイデアが認められ、ネット事業部創設につながった。

現在はネット関連の事業が中心だが、それだけにとどまるつもりはない。「繊維はもちろん、ロボットやエンターテインメントなどやりたい分野はたくさんある」。会社員や経営者として研さんを積みつつ、世間を驚かせるアイデアを練り続けている。

起業経験を織り込み発案

ほくりく *ism*

歳 川石川中能登町出身、36